

【投稿】汚染水を濾過し冷却水に

会員 鈴木幸夫

福島第一原子力発電所から出る高濃度放射能汚染水の現在の処理方法には無理がある。一方で絶え間なく水を注入し続けなければならない状況である以上、排出される汚染水は流出し続ける訳で、誰が考えても収納に限度があることは明らかである。膨大な量の汚染水の処理はどうするのか？ 汚染水を濾過して再び冷却水として循環させる以外にない。

注入量と排出量は同じであるから、水量が増えることはない。そして自然蒸発する分は補充すればよい。このたび、東工大の研究グループがこの汚染水浄化に画期的な方法を開発した。これによって一層循環方式が可能となる。

高濃度汚染水の海への流出を「水ガラス」と呼ばれる硬化剤によって止めたことは、地下水汚染と、たまり水の水位上昇という新たな難問を作り出した。汚染水の流出を単に止めるのではなく、流出口に枡状の容器を置き、汚染水をポンプで汲み上げて濾過し、冷却水として循環させるべきであった。

タービン建屋は大きな配管の一部とみなし、密閉して使用しない。循環機能が起動した後に、たまっている汚染水は時間をかけてでも除去できる。4つの原子炉を廃炉にするつもりなら、出来るはずである。